

武川みたけ

第四十九号

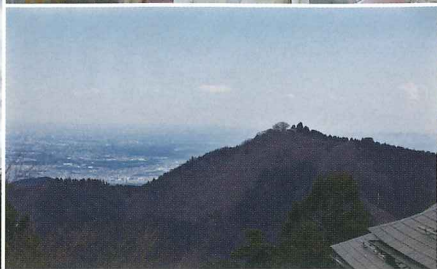
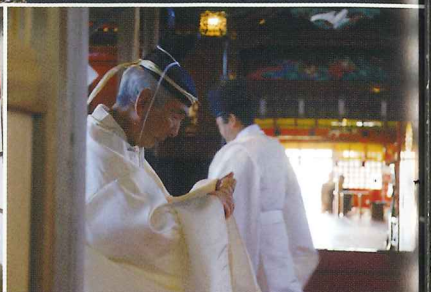
青河母雅子



酉年式年大祭

平成二十五年より進めてまいりました式年大祭記念事業も、各関係機関、ご講中、篤志者皆様の特段のご支援、ご協力を得て、無事竣工することができました。そして四月・五月と二ヶ月に亘る式年毎日祭は滞りなく盛大に斎行されました。これも偏に御嶽大神の御恩頼と感謝し、多勢の皆様にご参拝頂けましたことは大変喜ばしく、関東平野を広く見渡す御嶽大神の大御機威を輝かしめ給うよう、今後より一層鋭意努めてまいりたいと存じます。

(写真・鶴巻 育子)



記念事業竣工祝賀会

3月26日(日)記念事業竣工奉告祭と祝賀会が行われました。夜更けより雪が降りだし、ご来賓の皆様には残念ながら竣工奉告祭にはご参列頂けませんでした。スイートプラムでの祝賀会には、多勢の皆様にご臨席を賜りました。大変賑々しく、盛大な祝賀会となりました。

衆議院議員 井上信治氏



沢山の方に幟旗をご奉納いただきました。

(左) 西武ライオンズ
岡田雅利 捕手



衆議院議員
石原伸晃氏

奉納芸能一覧

新川囃子連
角泉講中 囃子連
清河寺囃子連
相沢会 民謡
中引田講中 囃子連
神木囃子連
石井戸講中 囃子連
江戸一番隊
青梅市立友田小学校 御嶽仙歌
太極拳 奉納演武
日本雅楽会 舞楽
下大戸公社講 囃子連
下小田中囃子連
村野公一 囃子の笛
絵鳩なぎさ 歌謡
大戸神社 祭り囃子保存会 お囃子
梅花会 浦安の舞 (4人舞)



獅の彫刻には、実は深い意味が込められています。空想上の生き物獅は、鉄や銅を食べるとされ、戦で武器を作ると獅は食料が無くなり生きられません。そこで「戦の無い平和な世の中にするように」という願いが込められているのです。

奉納

式年大祭(二万円以上・敬称略)

平成二十九年二月一日

平成二十九年八月三十一日

八十万円以上

板橋区

上板橋桜川敬神講中

五十万円以上

板橋区

荒井宏二

三十万円以上

三鷹市

新川宿講中

新座市

野火止上組講中

ふじみ野市

亀久保講中

青梅市

河辺講中

市川市

不二之会 会主 奥井恵子

二十万円以上

三鷹市

中仙川講中

三鷹市

木村康雄

青梅市

友田黒田御嶽講中

青梅市

畑中講中

青梅市

(株)土屋建設 土屋久雄

十万円以上

足立区

本木御嶽講中

新座市

野火止下組講中

足立区

本木東町会御嶽講中

川崎市多摩区

菅北浦御嶽講中

福生市

牛浜講中

川崎市多摩区

菅馬場講中

日野市

宮講中

松戸市

松戸御嶽講中

和光市

下新倉一区講中

和光市

原新田講中

川崎市多摩区

菅芝間講中

あきる野市

高瀬講中 小野源一

十万円以上

伊勢原市

羽村市

足立区

所沢市

所沢市

所沢市

奥多摩町

瑞穂町

日の出町

日の出町

青梅市

青梅市

川崎市多摩区

足立区

多摩市

町田市

入間市

八王子市

武蔵村山市

武蔵村山市

武蔵村山市

福生市

豊島区

鶴ヶ島市

鶴ヶ島市

横浜市

福生市

世田谷区

あきる野市

江戸川区

小平市

八万円以上

上野田講中

藤金御嶽講中

下田町講中

志茂講中

大蔵石井戸講中

私市基

東小松川大明講中

加藤一夫

美原日の出講中

寛麗会

森田憲治

林新田講中

荻野 實

清水土木建設(株)

代表取締役 清水 誠

(株)玄聖 宮川 玄多

谷の入講中

青木 毅

岩浪勝一

梅郷町谷杉平講中

原島 征男

末吉商事(株)

代表取締役 末吉 一夫

西澤 澄代

瓜生講中

町田大蔵講中

仲 輝三

両山講中

乙幡武正

有限会社アスカ総業

乙幡 芳美

森田昌利

(有)八幡神社

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

五万円以上

新宿区

新宿区

青梅市

川島町

足立区

足立区

足立区

大磯町

中央区

藤沢市

八王子市

八王子市

八王子市

三万円以上

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

足立区

高田馬場講中

葛が谷御嶽講中

原島 功

田中米蔵

南戸守講中

葉本 喜信

石井隆子

田ヶ谷正久

虫窪講中

銀座タックスダックス

巳作和恵

台谷講中

山下明良

三箇龍仁

榎本 晴夫

岩井英雄

榎米 一

瀬田こと

石井義一

小宮忠義

榎本 攻

田中彌一

田中武男

田中博義

田中善隆

國井市郎

瀬田基一

片野悦宏

坂下講中

中島講中

蒲田 修

田中昭彦

(有) 田中伴作商店

久米講中 針ヶ谷 明

(株)高野土地 高野鉄夫

森川 一郎

牧石友信

砧山野講中

御岳山の行事

平成二十九年

一月 一日 元旦祭

三日 太占祭

二月 三日 節分祭

初午 稻荷社祭

三月 八日 春季大祭(祈年祭)

二十三日 奉納俳句奉告祭

四月 下旬 産安社祭

二十九日 奉納剣道大会・介山祭

五月 七日 日の出祭(宵宮)

八日 日の出祭(神輿渡御)

十五日 男具那社祭

大口真神社祭

六月 十八日 神楽と雅楽の一般公開

二十五日 一日修行体験講座

三十日 夏越大祓

七月 十五日 レンゲショウマまつり

(九月十日)

十五日 新神楽

十七日 滝行体験講座

九月 二日 カンタンを聴く会

九日 新神楽

二十九日 大口真神社祭

流鏝馬祭

十月 三十日 修行体験講座(泊)

十一日 神楽と雅楽の一般公開

十一月 八日 秋季大祭(新嘗祭)

二十三日 末社祭

十二月 十日 みたけ山トレイルラン

二十三日 天長祭

三十一日 大祓

六月・十一月 第四日曜日 夜神楽

毎月 八日 月次祭

毎日 日供祭

三万円以上

奥多摩町 大久保雄二
青梅市 原嶋 和利
青梅市 金田義弘
青梅市 片柳美枝子
川崎市 持田千紘
川崎市 菅北浦講中 田口好行
多摩市 町田・多摩 小野路講中
八王子市 野嶋 和之
練馬区 田中大代
練馬区 櫻井祐次
練馬区

一万円以上

葛飾区 福島 馨
新座市 (有) さがら設備工事
世田谷区 大蔵石井戸囃子保存会
青梅市 共立興業(株) 町田憲治
川崎市中区 平間御嶽講中
草加市 鈴木恵美子
あきる野市 引田囃子保存会
あきる野市 小野源一
さいたま市西区 鯉井康弘
さいたま市西区 鯉井俊子
さいたま市南区 田島良彰
ふじみ野市 野溝貞夫
愛甲郡愛川町 伊從秀行
羽村市 渡邊真理
羽村市 (株) 浦野建築 浦野正美
横浜市旭区 横溝洋子
横浜市旭区 廣中康二
葛飾区 御嶽の会
鎌倉市 山下貞
狭山市 松本和治
高崎市 羽鳥喜好
志木市 田中満男
所沢市 神山勘次
新座市 高野工事(株) 高野一夫
秦野市 石田正司
世田谷区 香取キヨ子
世田谷区 箕輪桂一
西東京市 立岡綾子
青梅市 森村隆行

一万円以上

青梅市 (株) Vessey
大久保貴惟
青梅市 (有) 榎沢商店
武蔵野作酒店 武藤一由
秋山和洋
瀨中満江
原田志恵子
小森靖久
二見和人
大谷芳生
伊灯文幸
(有) 増岡材木店
増岡健司
白井市 多田明子
八王子市 八木岡照義
富士見市 鶴馬紺屋 横田登
府中市 加藤尚子
福生市 佐藤佳与子
平塚市 杉山善弥
立川市 税所功一
立川市 新川千歳世
練馬区 篠久郎

奉納・営繕資金 (二万円以上・順不同・敬称略)

平成二十九年二月一日

平成二十九年八月三十一日

一万円以上

板橋区 天祖神社
板橋区 宮司 小林保男
練馬区 上板橋桜川敬神講中
練馬区 大泉辛酉講中
練馬区 加藤友久
川越市 有泉下組講中
青梅市 梅花会
川崎市 下小田中囃子連中
川崎市 坂戸講中 武笠一男
日の出町 (有) 羽生緑地建設
町田市 大戸囃子保存会

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっております。太々神楽はどなたでも奏上いただくことが出来ます。是非、太々神楽を奏上されますよう、皆様のお申込をお待ち申し上げます。

平成二十九年二月一日

平成二十九年八月三十一日

三鷹市 新川宿講中
練馬区 中村講中
川崎市宮前区 馬絹講中
練馬区 大泉辛酉講中
三郷市 横掘講中
川崎市多摩区 長沢講中
大田区 六郷参拝講中
新宿区 西落合葛ヶ谷講中
杉並区 浜田山講中
秦野市 秦野御嶽講中
川崎市高津区 坂戸御嶽講中

一般公開日程

太々神楽は最も格式の高い参拝方法として神さまをお慰めし共に楽しむもので、奏上には事前に予約が必要となります。そこで一般の皆様には太々神楽をご覧いただけますよう、一般公開を年数回行っております。

神楽と雅楽の一般公開 (神楽殿)

十月九日 (月) 十一時開演

夜神楽 (神楽殿・夜八時開演)

九月 二十四日 (日)
十月 二十二日 (日)
十一月 二十六日 (日)



石段奉納

三十万円以上

足立区

瀬田甚一

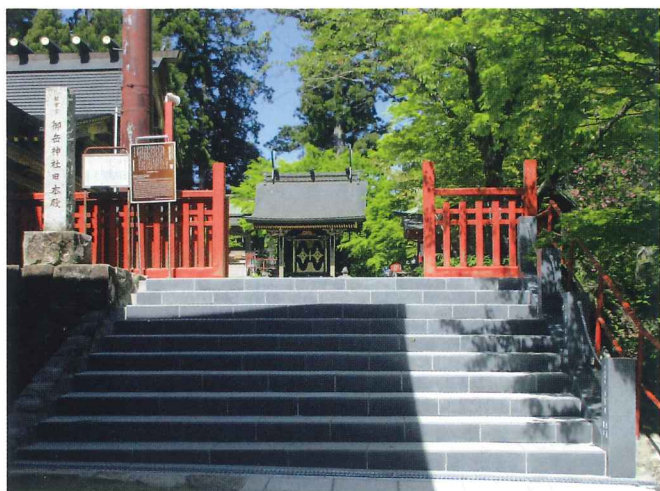
八王子市

八木岡照義

横浜市都筑区

吉野浩司

(順不同 敬称略)



御獄神社あれこれ

明治六年の式年大祭

韞矢嘉史

今から一四四年前、明治六年（一八七三）酉年の式年大祭に向けた様子について、御嶽山に伝えられている古文書から紹介しましょう。

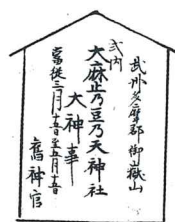
式年の前年、明治五年十月、大宮司（神主）と禰宜（御師）の代表の二名が、当時御嶽山が所属していた神奈川県の権令（現在の知事）である大江卓おおかたに対し、式年大祭に就いて願書を提出します。願書の要旨は、「延喜式内社の大麻止乃豆乃天神社である御嶽山では、往古から酉年を式年として大神事を執行してきた。来年明治六年は酉年で式年にあたるため、大神事を執行し、参拝者に神宝を拝覽させ、二月十五日から四月十五日までの六十日間、神饌をお供えし天下泰平・五穀成就の祈願を神職一同で精勤したい。」というものでした。この願いは十一月九日に神奈川県権令に許可されました。

明治六年一月二十二日には神主・御師の代表が入間県（および現在の埼玉県西部）に対しても願書を提出します。この願書では、川越町（現・川越市）・扇町屋村（現・入間市）・飯能村（現・飯能市）・小川村（現・比企郡小川町）・松山町（現・東松山市）・所沢村（現・所沢市）に式年大祭の立て札設置を願っています。立て札には、三月十五日から五月十五日（明治六年に太陰暦から太陽暦に変更されたため、期間が一ヶ月繰り下げられる）の「武州多摩郡御嶽山式内大麻止乃豆乃天神社 大神事」の執行が記されます。入間県は立て札設置を許可しました。同様の願書を東京府（現在の東京都）にも提出し、許可を受けています。

崇敬者に向け、式年大祭を案内した文書も残されています。



明治5年 神奈川県権令宛
式年大祭執行願書
(金井家文書)



明治6年
式年大祭 立て札文案
(金井家文書)

す。この文書では、「武蔵国多摩郡御嶽山式内大麻止乃豆乃天神社大神事並びに神宝博覧会」の公許を受け、東京府・各県の町・村に立て札を設置し、三月十五日から五月十五日まで祭祀を執行して国家安泰・五穀成就を祈願する旨を伝え、崇敬者に対し、神社参拝と神饌奉納・太々神楽奏上を願っています。神饌として「御酒」「御供米」「畑ノ物」「山ノ物・海ノ物」、他に「灯明（水油・ろうそく）」などの奉納を願い、奉納者には、その姓名を記録して御神前で安全祈願を行い、「御祓・玉串・御流箸」を進上するとしています。

明治維新によつて近代という新たな時代が到来します。明治六年は近代最初の式年大祭ということになります。春の二ヶ月間、現在と同じように崇敬者に支えられて執行されたことがわかります。

江戸時代、関東の各村では御嶽山に参拝する御嶽講が
 結成されていました。立て札が設置された川越、所沢な
 どの町・村は、関東各地域の経済・交通の要地で、数多
 くの人びとが集まります。既に御嶽講に属している崇敬
 者に加え、それ以外の人びとも式年大祭を周知して参
 拝してもらうために立て札を設置したと考えられます。

明治初年の御嶽山では、新たな情勢に対応すべく様々な模索と努力を重ねていました。明治七年には、神奈川県社の社格に列せられて「御嶽神社」と称することになり、翌明治八年には御嶽講が「豊穂講社」として再編成されます。御嶽山は、江戸時代からの伝統を保持しつつさらに御神徳を広め、講中をはじめ、関東を中心とする多くの崇敬者の信仰を集めることとなり、現在の武蔵御嶽神社に至ります。

明治六年の式年大祭は、近現代へと歩んでいく御嶽山の出発点の一つだったのではないだろうか。

【参考文献】『武州御嶽山文書』第二卷・第三卷（法政大学・青梅市教育委員会、平成十七年・二十一年）

● ● ● 講 中 を 訪 ね て ● ● ●

中野区 鷺宮御嶽講中

講元 大野 道高

鷺宮講中は、中野区の北西部に位置し杉並区・練馬区に隣接しており、西武新宿線の鷺ノ宮駅を中心とした地域です。当講中は徳川末期、父祖の篤い信仰心のもと下鷺・上鷺宮全域に於いて百五十有余年絶えることなく信仰心が続いております。幾度となく参拝記念碑の話がもちあがったようですが実現には至っておりませんでした。昭和五十八年に再び記念碑建立の話が持ち上がり、当時の講元大野錦作氏を中心とした世話人の方々と御師の須崎直衛先生のご協力もあり、講中の方々の長年の願いでもあった『永代参拝記念碑』が建設され昭和五十九年四月十二日に除幕式が行なわれました。【場所は青銅鳥居のある参道東側、桜樹の下に高さ七尺・幅三尺五寸・厚さ四寸の碑が建ちました。表文字は須崎直衛先生直筆です。】この年は何度大雪が降った年と記憶しています。例年四月十二日に須崎御師宅（嶺雲荘）に伺い本社への参拝をしています。

私は、父が他界したので平成十年より世話人になりました。平成二十七年より鷺宮御嶽講中の講元をお受けしました。現在の講中の状況は、中内・大境・北原の三地区で五十名ほどの講員で構成されています。各地区で三月中に御日持を開いて代参の方を選んで、四月十二日に御嶽神社へ参拝をし御借り換えをして



主幹宮司 須崎 直洋
所在地 東京都中野区
講員数 約五十名



おります。毎年四月十五日と九月十五日に末社に御神酒・御供え餅を供えて参拝をしています。これからも、須崎直洋御師様の御指導のもと「みたけ講」を末永く伝承して行く事がわれわれの使命と思っております。

最後に御嶽神社と須崎直洋御師宅の繁栄をお祈り申し上げます。

奉 祝 ・ 東 馬 場 家

六月十六日（金）に、御師・馬場家の長男馬場晃一さんが、森佳世子さんと結婚されました。喜びの声をお届けします。



私達は、生まれも育ちも全く違った環境でしたが、御岳山で出会い、今年6月16日武蔵御嶽神社大前にて、皆様に見守られる中、夫婦となることができました。このご縁に感謝し、二人で力を合わせて、私達らしい家庭を築いて行きたいと思っております。どうぞあなたかくお見守り下さい。

馬場 晃一・佳世子

ご相談・受付は
お電話にて...

婚礼の儀

奇主 一人／三人奉仕
伶人 一人／三人奉仕
典儀（ご案内） 一人

※控え室はございますが、和装等のご用意はありません。衣装・着付・ヘアメイクについてのご紹介は可能です。ご相談下さい。

神社の杜(四十九)

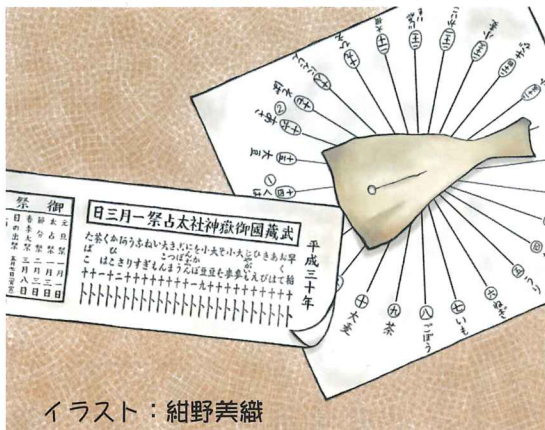
「太占(ふとまじ)」(その二)

片柳 茂生

お祭り当日の夜が明けます。山の上の夜明け前はとつても寒いです。手や足の悴む中、祭員の皆さんは斎場や神饌の準備を行います。正月三日の日の出時刻は約七時、そうお祭りは日の出と共に始まります。

参進、修祓、開扉、献饌、祝詞奏上、普段と同じようにお祭りは進みます。でもここからが非公開。副斎主を本殿前に残し、斎主以下祭員、それと参列した神職は正面からのぼった太陽の先を、太占斎場へと進みます。

斎場に着くと新たにお祭りが始まります。神様には斎場の神籬に降りて来て頂き、簡単なお食事として頂きます。そして斎主の祝詞奏上、それが終わると祭員の二人が骨と薪、炭を持って炉の東西に向かい合って座ります。炉の中には予め火付けのための杉の枯れ葉が置かれています。小さな移動用の火鉢の中から、昨晚熾した炭を取り出し、炉に入れます。薪も入れてさらに火を大きくします。火の状態を観察しタイミングを見計らって斎主は、火を鎮めるための鎮火祝詞を奏上します。それが終わるのを待って祭員は炉の上に網をかけ、その上に骨を置きます。もう一人の祭員は、



イラスト：紺野美織

三種神寶祝詞を唱え始め参列した神職もそれに倣います。この祝詞は昔から神社で唱えられている祝詞で大口真神社のお祭でも唱えます。御岳山の神職なら誰でも空で唱えることが出来ます。この祝詞を三回唱えるのですが、その間、火が消えそうになっても息を吹きかけて火を熾そうとしてはいけません。あくまで成り行きに任せます。火にあぶられても何の現象もおきなかった骨が、祭壇に捧げると、ピキッ・ピキッと罫が入る音が聞こえる時もあります。

すべての行事が終了すると神様には元の御座にお帰りいただき、太占のご神託は終了します。

幣殿に帰り、お祭りの残りの次第も終了し、斎主らが社務所に戻って早々、昨晚骨の形を写した紙に罫を書き写します。ここでやっと算盤の出番になる

のですが、悲しいかな今は電卓にその役を取って代わられてしまいました。あらかじめ引いておいた線を罫がどのくらいの割合で分断しているかで、その作物の出来具合を計ります。

いかがでしたか？これが太占祭の模様です。前号の最初に書いておきました今年の

気象予想、それと占いによる作物の出来不出来、今年皆さんの処ではいかがだったでしょうか？当たるも八卦、当たらずも八卦。占いでものね。でも六年前の太占祭ですが、実は骨の中心部分が丸焦げで散々な結果だったのです。

六年前は何がありましたっけ・・・。

表紙写真

「奉納芸能」

酉年式年大祭を祝し、伝統あるお囃子をご奉納いただきました。さいたま市西区「清河寺囃子連」

撮影・鶴巻育子

あ と が き

式年祭を迎え、社殿も美しく生まれ変わりを新たなスタートをきりました。古より伝えられたものを再生し、また次の世代に継承する。形のみならず、その魂や精神をも継承していくのです。神道には、古代から培われてきた日本人の智慧や価値観が息づいています。時代に合わせ少しずつ変化しながらも現代に至っています。武蔵御嶽神社もそうであり、これからも時代の変化を取り入れながら永続していくのです。

不易流行

中野区鷺宮御嶽講中 講元 大野道高様、鶴巻育子様、齋藤慎一先生、片柳茂生様、靱矢嘉史様玉稿を有難うございました。

平成二十九年 九月二十九日発行

〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八)八五〇〇

FAX 〇四二八(七八)九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashimikakejinja.jp/